

防災・復興リーダー育成プログラム

防災・復興の科学を学び、創造的復興を支える力を身につけます



近年、能登半島地震をはじめとする自然災害は、地域社会に大きな影響を与えています。災害からの復旧・復興には、単なる被害の回復にとどまらず、将来を見据えた持続可能な地域づくり、すなわち「創造的復興」の視点が重要です。

本プログラムでは、自然災害の特性や災害対応、復旧・復興の考え方を、科学的視点と地域の実情を結びつけながら分野横断的に学びます。能登の里山里海を題材に、地域の安全性と人のつながりを踏まえ、創造的復興につながる新たな視点を提示し、実践的な能力を養います。オンデマンド学修と集中講義を組み合わせ、柔軟かつ多角的な学びを提供します。修了後は、本プログラムを通じて獲得した知識とスキルを活用して、自治体、企業、地域コミュニティなどにおける防災・復興活動を先導し、地域の復旧・創造的復興に貢献できます。

(※選択科目のうち「防災マネジメントB」は総合的な内容を扱うため、プログラムの終盤に配置して受講することが望ましいです。)

正課の授業科目によるリスクリングプログラム科目一覧

別紙3

プログラム名	防災・復興リーダー育成プログラム
プログラム設置部局	能登里山里海未来創造センター
プログラムコーディネーター	信岡 尚道
概要	本プログラムは、防災・復興に関する共通教育科目を基盤とし、関連性の高い専門教育科目を組み合わせて体系的に編成した教育課程を提供します。受講者は、自然災害の発生メカニズムや地域社会における災害対応・復旧・創造的復興を、科学的かつ分野横断的に学修します。修了者は、地域の安全性や人とのつながりを活かし、持続可能な社会の創造に貢献する実践的防災・復興リーダーとして活躍できます。
到達目標	多様な自然災害の特性や対応策を理解し、将来、被災地の諸機関と協働して復旧・創造的復興を推進するために必要な多角的知識とスキルを修得することを目標とします。具体的には①多様な自然災害の特性やその対処法について総合的に理解していること。②被災地・被災者の復旧・創造的復興支援に関する分野横断的な知識や多角的視点を身に着けていること。③地域社会で活動する際に必要となる基礎的なスキルや態度を身につけ、持続可能性や人とのつながりを創造するリーダーとしての素養を備えていること。
履修資格・条件・前提知識の目安	1. 自然災害、防災、復興に関心を持っていること。 2. 本プログラムで学修した知識・スキルを活用し、将来、地域社会に還元・貢献する意欲を持っていること。 3. 主体的に学び、協働を通じて地域を支える姿勢を備えていること。
履修期間及び開始Q	履修期間: Q1からQ4、開始Q: Q2
修了要件	7科目中より6単位以上を修得すること。

授業科目名	開講学類等	単位数		修了要件 内訳	備考
		必修	選択		
防災・復興データサイエンス入門	共通教育科目		1		
防災・復興学入門A	共通教育科目		1		
防災・復興論	地域創造学類／共通教育科目		1		
防災地域づくり論	共通教育科目		1		
災害時マネジメント論	地域創造学類／共通教育科目		1		
復興地域づくり論	共通教育科目		1		
防災マネジメントB	地球社会基盤学類／共通教育科目		1		他の科目より後に受講することが望ましい

特記事項	
問合せ先	プログラムコーディネーター: 能登里山里海未来創造センター 信岡 尚道 メールアドレス: nobuoka@staff.kanazawa-u.ac.jp 担当係: 学務部学務課 メールアドレス: bousaifukko@adm.kanazawa-u.ac.jp

プログラム名						
防災・復興リーダー育成プログラム						
プログラムのCP(教育課程編成に関する基本的考え方)						
<p>本プログラムでは、防災・復興に関連する共通教育科目を中心に据え、関連が強い専門教育科目も組み込み体系的に編成する。</p>						
教育内容・教育方法(教育課程実施)に関する基本的考え方						
<p>1. 教育内容</p> <p>(1)自然災害の発生メカニズムと地域社会への影響を、地球科学・社会基盤学・地域創造学など多角的な視点から科学的に理解する。</p> <p>(2)災害対応・復旧および創造的復興に関する基礎知識を、地域政策・地域計画などを含む分野横断的な学修をする。</p> <p>(3)被災地支援・被災者支援に関する地域創造学的な知識と技術を学び、諸機関との協働を通じて実践的に理解する</p> <p>(4)地域の安全性や人とのつながりを活かし、持続可能な地域社会を形成するために必要な基礎的スキルと態度を養う。</p>						
<p>2. 教育方法</p> <p>オンデマンド学修および一部、夏季休業期間の土日に実施する対面での集中講義にて多角的に学ぶ。</p>						
プログラムを構成する科目						
科目番号	授業科目名	学修目標			Q1	Q2
(77678.1)	(防災・復興データサイエンス入門)	人口推計の基礎を理解し自ら計算できる。人へのリスクは災害ハザードと暴露(人口)と脆弱性の重なりで示せることを説明できる。自然災害と人口について、その変動を含めて分析できる。以降に、学修する科目で人口を意識して分析ができる能力を身につける。			○	
(77681.1)	(防災・復興学入門A)	多様な自然災害のメカニズムや対応策・課題を地球科学、社会基盤学の観点から総合的に理解することで、自然災害に対する問題意識を喚起する。合わせて、被災地諸機関と協働して復旧・復興を推進するため必要な基礎知識を地域創造学や観光学等の多角的視点から学修する。			○	
35A19 (77649)	防災・復興論 (防災・復興論)	災害発生後の復旧・復興、災害を想定した防災・減災について理解し、主体的に行動するための知識や技能、態度を修得する。			○	
(77679.1)	(防災地域づくり論)	人口減少下の地域の減災について基本的な説明ができるようになる。地域の状況に応じた減災方策の基本的な提案ができるようになる。人口変化に応じた地域の減災方策の基本的な提案ができるようになる。				○
35A20 (77650)	災害時マネジメント論 (災害時マネジメント論)	大規模災害発生時の組織の役割と対応、被災者支援やボランティア対応などの支援マネジメントについて理解する。				○
(77680.1)	(復興地域づくり論)	人口減少下の地域の復興について基本的な説明ができるようになる。地域の状況に応じた復興の基本的な計画を提案できるようになる。人口変化に応じた地域の復興の基本的な計画を提案ができるようになる。				○
44186 (77659)	防災マネジメントB (防災マネジメントB)	ハザード・暴露・脆弱性の視点から確率的な災害リスクの説明ができるようになる。減災から復興までを見据えた国土強靭化について基本的な説明ができるようになる。人口を中心とした地域の実状や将来変化を考慮した、国土強靭化の施策提案ができるようになる。			○	

※1 ()は共通教育科目の科目番号

※2 ()は共通教育科目の授業科目名